

5年 授業実践


1 主題名・教材名 真の友情 B 友情、信頼
「ロレンゾの友達」(出典:「小学道徳5 はばたこう明日へ」教育出版)

2 本時のねらい

ロレンゾに対する三人の友達の考え方について話し合い、自分にとっての「真の友情」について考えを深めることで、友達の立場や気持ちを理解しながら互いに信頼し、友情を深めていこうとする態度を育てる。

3 展開

段階	○学習活動と・主な発問	・予想される児童の反応	・指導上の留意点 ○評価	時
導入	○事前アンケートを提示し、友達についてのイメージを共有する。	<ul style="list-style-type: none"> 一緒に遊んだり、おしゃべりをする。一緒にいると楽しい。 落ち込んだ時などに明るい気持ちにさせてくれる。 	<ul style="list-style-type: none"> 現段階での児童がイメージする「友達」像を確認し、共有する。 	5
展開	○本時のテーマを知る。	自分にとっての「真の友情」について考えよう。		5
	○「真の」「友情」について、言葉の意味や自分のイメージを確認し、共通認識をもつ。	<ul style="list-style-type: none"> 真の=本当の?まさに? 友情…友達を思う気持ち? 友達との関係 		
	○条件・状況を振り返る。	○登場人物 ロレンゾ、アンドレ、サバイユ、ニコライ ○〈アンドレ〉逃がす 〈サバイユ〉自首→逃がす 〈ニコライ〉自首→警察に		
	○心に残った場面を確認する。	<ul style="list-style-type: none"> かしの木の下で考えているところ。 かしの木の下でのことをなぜ言わなかったのか。 		10
	○自分の考えは誰に近いか考えさせる。 ・みんなの考えはどれに近いですか。	<ul style="list-style-type: none"> アンドレ:していないと信じたいが、友達を裏切れない。 サバイユ:罪を認め、償ってほしいが、ロレンゾが逃げたいなら逃がす。よほどの事情があるはずだから。 ニコライ:苦しめるくらいなら、自首をすすめる。自分の犯した罪はきちんと認めてほしいから。 	<ul style="list-style-type: none"> どの考えが正しいということはないことを確認する。 自分はどの考えに近いか、その理由も考えさせ、3人の考えの奥にあるロレンゾを思う気持ちに気付かせる。 	
		1 3人は何を大切に考えているのでしょうか。		
		<ul style="list-style-type: none"> どうすることがロレンゾにとって一番よいのか。 	<ul style="list-style-type: none"> それぞれが、どうすることがロレンゾにとって一番よ 	

	<ul style="list-style-type: none"> ・本当にロレンゾのためになるのはどんなことか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ロレンゾのことを疑ってしまったことを後悔しているから。 ・自分が考えた対応は、本当にロレンゾのためになることだったのかと思ったから。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の発言に対して投げ返し、言葉の奥にある考えや本音を引き出し、深めていく。 ・様々な視点からの考えを出させる。 	10
終末	<ul style="list-style-type: none"> ・自分のアンケートを振り返り、自分にとっての真の友情について考えましょう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・相手のことを真剣に考える。 ・自分が相手にできることを全力で考える。尽くす。 ・協力し合う、助け合う。 ・相手にとって何が一番よいかを考えて、自分のできるベストを尽くしたい。 ・全部を話す必要はないかもしれないけれど、本音を言い合えるといいと思った。 	<p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px;">③ 自分にとって真の友情とはどのようなものだと思いますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々な発言を受け入れ、児童一人ひとりが「自分にとっての真の友情」について考えを深められるようにする。 ・学習前と学習後の「友達」についての考えを比較し、これからの友達との関わり方について考える。 <p>○友情を深めていくために、友達とどのようにかかわることが相手にとってよりよいのかについて多面的・多角的に考えを深めていたか。(授業中の姿や発言・ワークシートの記述)</p>	15

4 授業の成果(○)と課題(●)

- 事前アンケートを授業の始めと振り返りで使うことで、考えの深まりを児童自身が自覚することができた。
- 主題が児童にとって難しいものであっても、テーマを丁寧に確認することで、児童が真剣に考えていた。
- 登場人物の行動についてバロメーターを使ったことで、自分事としてとらえ、話し合うことができた。
- 事前に資料わたしを行ったことで、話し合いの時間を確保することができ、話し合いが深まった。
- フリートーク形式で授業を行うことで、一部の児童の話し合いになりがちだった。
- 話し合う場面を絞り、テーマにつながるキーワードを取り上げて話し合いの焦点化を図る必要がある。

5 指導講評(法政大学兼任講師・元埼玉県道徳教育研究会会長 廣瀬 仁郎先生)

- ・フリートーク形式にすることで、子供同士で考えを広げていけるのは良い。しかし、任せきりではなく、主題によって行けるようにナビゲートしてあげる。また、全員参加できるように、意図的に指名して発言してもらおう。
- ・思考の流れを大切に授業をつくり、段差ができないように。
- ・児童の深い意図を聞き出せるようにする。
- ・道徳の授業は、クオリティー(質)とバラエティー(工夫)が大事。